

2005.1.13 IODP 部会事務局

日時：平成17年1月11日（火） 15:00～17:30

場所：海洋研究開発機構東京事務所

出席者：執行部 徳山・荒井・井龍・木戸・木村・徐・巽

オブザーバー：里村 事務局 山川・西川

【コンソーシアム全般について】

- ・ 事務局より、会員提案型活動経費選考結果について報告があった。
- ・ 事務局より、コンソーシアムと（財）地球科学技術総合推進機構との間の了解事項締結の報告があった。
- ・ 事務局より、コンソーシアム会費の旅費への使用に際し、国内旅行傷害保険を付保することが報告され、認められた。

【専門部会・国際パネル対応について】

- ・ 12月に開催された科学計測専門部会、その他専門部会・WGの議事録については、事務局に届いたものを、ホームページにアップする。
- ・ 徳山部会長・巽執行部員より、SPPOC会議の報告があった。
- ・ SAS構造については、SPPOC内のWGの検討に基づき、変更される模様（役割を明確にし、パネル名等を変更する。ILPは時限つき委員会に再編する。IOのプレゼンスを強化する。など）。
- ・ SPPOCで、05USFY後半以降（'06.1月まで）の航海スケジュールが決定した。これを受け、国内での乗船研究者募集準備を進める。
- ・ SPPOCで、コアの保管について、SPCの答申に基づき、地理的区分を基本に行うことが確認されたが、その地域分け等については再度SPCで議論される見込。今後執行部からSPC委員へ、日本としての考えを伝え、理解を求める必要がある。
- ・ SPPOCでは、IODPの長期計画の策定について検討された。その中で、CONCORD、COMPLEX規模の国際会議開催が検討されている（'06.2～'07.7間のノンライザー船停止期間等に開催計画）が、J-DESCとしても、これら主要会議への支援を行ってゆくことが確認された。
- ・ 次回SPPOCは、05年6月頃に日本（横浜を想定）で開催される。
- ・ SPPOC代理委員（2名選出）については、徳山部会長が候補者に打診し、早急に決定する。なお、次回以降のSPPOC会議には、代理委員もオブザーバー出席した方がよいとの意見が出された。
- ・ SPC委員の選任について、徳山部会長が候補者に打診し、21日までに決定し、事務局からIODP-MI Sapporo Officeに通知する。
- ・ 次期SPC副議長につき、検討を進める。SPC、パネル等を合わせ、総合的に人事の長期

計画を検討する必要がある（本件は、次期執行部に引き継ぐ）。

- ・ ILP 委員について、徳山部会長が産業界関係者と協議し、今月中に決定し、事務局から IODP-MI Sapporo Office に通知する。
- ・ SciMP 委員・代理委員については、科学計測専門部会で検討中。まもなく決定される見込。決定次第、事務局から IODP-MI Sapporo Office に通知する。
- ・ 年度末までの専門部会・WG の開催予定が確認された。環境保護安全専門部会、情報システム WG を除き、各 1 回ずつ開催の方向で日程調整中。専門部会担当執行部員は、各専門部会と連絡を密に取る。
- ・ SSEPs 共同議長のローテーションについて、J-DESC として SSEPs 共同議長のローテーション方法に対し配慮を求めよう、SPPOC 会議の際に関係者に打診したが、回答は得られなかった。SSEPs 共同議長における I・E のバランスについては、一時的に崩れても止むを得ないと J-DESC は考えている。現在、環境関連で SSEPs 共同議長就任を前向きに考える研究者がいることから、日本としてはこの方を、日本からの次期 SSEPs 共同議長候補として推すことが確認された。なお、パネル共同議長選出の際は、J-DESC を上げての支援を確認するため、また国内全体で長期的な人員配置の計画を考えるためにも、専門部会主導ではなく、IODP 部会執行部が主体的に関与してゆく必要がある。
- ・ SSEPs の委員交代に際し、今年度中に新委員が決まるよう、委員公募作業を進める（事務局・各専門部会担当者）。

#### 【国際対応について】

- ・ アジア人乗船研究者に関する J-DESC レターを発信する。徐執行部員が徳山部会長に送付先リストを至急送る。このレターは、J-DESC ホームページに掲載する。
- ・ 韓国国内 IODP 研究支援体制整備(含・アジアコンソーシアム立ち上げ)のための視察・情報交換のため、韓国 IODP 関係者が 2 月 28 日～3 月 3 日 (J-DESC 側の希望) に来日する。一部招聘旅費は、MEXT に支援していただく。訪日期间中アジア担当の徐執行部員が、スマトラ地震調査のため不在であるため、対応は執行部員が分担して行う。徐執行部員は、至急韓国側および国内関係者と調整し、日程表と対応方針を作成する。
- ・ 本年 3 月に開催された国際ワークショップのプロシーディングスの作成を急ぐ。

#### 【広報関連】

- ・ 事務局より、コンソーシアムホームページの韓国語版・中国語版の作成について説明があった。2 月の韓国 IODP 関係者訪日時を目途に作業を進める。
- ・ 異執行部員より、IODP 大学 & 科学館キャンペーンの今後について問題提起があった。各機関の予算が厳しい折、CDEX 負担の軽減、J-DESC 独自の展示品作成、外部資金の獲得、地方会員機関や IODP 乗船研究経験者への貢献要請等、運営形態について検討を進める（異執行部員・木戸執行部員・事務局）。
- ・ 次回深海掘削委員会で、IODP Education & Outreach の重要性について、発言を求める。主要委員に質問してもらえよう働きかけるなど、対応して行く（徳山部会長・異執行部員）。
- ・ プロポーザルの育成に結びつく企画を支援してゆくことが確認された。会員提案型活動経費の募集基準等、次年度計画の中で明確にしてゆく（本件は、次期執行部に引き継ぐ）。

#### 【IODP 乗船研究関連】

- ・ 荒井執行部員・井龍執行部員より、タヒチ MSP 航海の乗船研究者の選考結果が報告された。韓国人研究者については、IO の特別枠により 1 名乗船予定。
- ・ 4 月以降のノンライザー船航海につき、乗船研究者の募集・選考を開始する。このためにも、アジア人乗船研究者に関する J-DESC レターの発信を急ぐ。

#### 【その他】

- ・ 徳山部会長の退任が臨時理事会で承認された。今後、臨時会員総会で正会員の承認を求める。
- ・ 新部会長候補者について、2 名の応募があったことが報告された。このうち 1 名は、新部会長選任 WG のメンバーであったため、新部会長候補の選考については、以後徳山部会長に一任された。
- ・ その後、新部会長候補者 1 名の辞退があったため、新部会長候補者は無投票で確定することとなった。早急に、徳山部会長から理事会に経緯説明と承認を求めるための文書を発信する。
- ・ 高知大学から提案された「コア解析スクール in 高知 2005」を、J-DESC が後援することが認められた。ただし、経費の支援は行わない。
- ・ 異執行部員より、今年度末に実施を検討していた IODP、陸上掘削、ODP を含めた J-DESC シンポジウムについては、陸上掘削部会とも協議の結果、合同大会の特別セッションと内容が重複することから、開催を見送ることが説明された。代わりに、来年度中に国際シンポジウムの企画が実現できるよう、年間計画策定時に検討する（本件は、次期執行部に引き継ぐ）。
- ・ 次回執行部会の日程は、新部会長候補者・新執行部員候補者が出席可能な日とする。今後事務局で調整する。